

## ○農林水産省生産局長賞

福島県福島市（モモ、リンゴ、ナシ等）

有限会社 あづま果樹園 代表取締役 吾妻 一夫 氏



Photo: 吾妻さんご夫妻

モモ 460a、リンゴ 200a、その他果樹（ナシ、ブドウ、オウトウ）330a を栽培する大規模観光果樹園であり、家族 4 人と常時雇用 5 人により経営を営んでいる。

就農 2 年後に有限会社を設立し、本格的な観光果樹園経営を開始した。周辺で耕作できなくなりそうな園地を積極的に借り受けるとともに、増えた園地の労力として貸主を雇用するなど、荒廃農地を作らず雇用創出に努めた結果、経営面積 990a のうち借地が 830a（8 割）を占めている。

モモ 10 品種、リンゴ 8 品種、オウトウ 6 品種など栽培する品目・品種は多岐にわたり、出荷や観光農園の年間営業期間の長期化を実現している。安全かつ効率的な作業実施に向けて作業改善提案制度を導入し、従業員が提案書を提出した際に褒章を与えることにより、従業員にも喜ばれている。

整枝・剪定方法の改善や新技術の導入の良否を確認しながら進めている。平成 6 年にエコファーマーの認定を受け、有機質肥料や堆肥の施用など環境にやさしい農業を実践している。

就農以来、地域ブランド「福島のかだもの」の構築に貢献してきており、平成 17 年には福島市観光園協会会長に就任し、福島県（県北地方）の果樹農業振興を牽引してきた。県と消費者庁との共催による復興事業の講師として、東京、京都などで放射性物質の抑制対策、出荷前検査など安全情報について消費者に発信している。



## ○全国農業協同組合中央会会長賞

福島県伊達郡桑折町（モモ、カキ）

蓬田 正信 氏 蓬田 由美子 氏



Photo: 蓬田さんご夫妻

モモ 357a、カキ 10a と水稻 721a を経営する大規模複合経営であり、夫婦と子供の家族 3 人により経営している。

モモの大規模専作化を進め、就農当時 13 ヶ所に分散していた園地を交換分合により自宅周辺に

集約化するとともに、早生から晩生、極晩生までの 14 品種を導入して、労力の平準化と高品質化による安定的な果樹経営を実現してきた。

東日本大震災以降、積極的に改植を行うことにより思い切った園地の若返りを進めており、平成 30 年度における未成園地（1～4 年生）の割合は 50.9%平均樹齢は 10 年となっている。販売は J A 系統出荷が 100%であり、カキは「あんぽ柿」に加工している。

品種選定に当たっては、長期収穫出荷による労力平準化とモモせん孔細菌病回避を目的に、作付け面積を早生種 37%、中生種 35%、晩生種 28%としている。密植による収穫量の増加よりも、収穫作業や防除作業等の管理作業効率化を優先させるため、原則として 1 園地に 1 品種を栽培するとともに、10a 当たり 16 本の疎植とし、仕立て方法は「開心自然形」を採用している。

家族経営協定を締結するとともに、パソコンによる先進的な経営管理や複式簿記による税務申告、作業分担の明確化など男女共同参画にいち早く取組み、産地振興の先導役を果たしてきた。

